

## 2020年3月期第1四半期 決算説明会での主なQ&amp;A

Q：全社、今回の下方修正の意味合いを確認したい。通期の営業利益15億円の下方修正であれば、今期始まったばかりでなくてもよかったのでは？それとも、まだ、下期にリスクあり？

A：1Qの営業損失から、上期の営業利益については見直さざるを得ない状況下、5月予想比30%以上の変更になり、東証の適時開示ルールに該当する。通期については、1Qでかなりの赤字を出してしまった以上、投資家の皆様にご迷惑を掛けるリスクを鑑み、見直した。加えて、世界的なマクロ情勢に不透明感が出ていることも考慮した（GAでは影響も見られた）。

Q：全社、投資家サイドからすれば、3カ月ごとに上下する御社の業績が想定しづらい（扱いにくい）。これを安定させられるようにする施策はあるのか？廣江社長の考えをお尋ねしたい。

A：率直な厳しいご意見に感謝申し上げます。今後は安定できるよう、SPEのSCM（サプライチェーンマネジメント）全般などを見直している。FTについても、収益性が振れないよう、様々な施策を取っている。安定した姿をお見せできるよう、年単位での構造改革を進めていきたい。

Q：SPE、メモリー（投資）回復期待が後退する一方、ロジック、ファウンドリー、中国での投資状況は良くなってきていると感じられるが、御社はどう見ている？

A：1Qの受注は想定を上振れ、2Qも同水準（600億円レベル）を想定し、当社の顧客構成を考えると、比較的良好な状況になってきていると感じている。

Q：SPE、収益改善は進んでいるとの説明があり、下期については、特に、営業利益の改善幅がかなり大きいのが、実現可能？利益の下期偏重具合が気になるので、確認したい。

A：前期（FY2019）の4Qから今回の1Qに掛けて、大幅減収した中で、平均的な限界利益で勘案すると、1Qの赤字幅は50億円前後となってもおかしくないところを0億円に留まった。これは、収益性改善の表れだと捉えていただきたい。下期は、予断は許さないものの、固定費コントロールを含めて、さらなる採算性改善を目指したい。

Q：SPE、1Qの売上が低かったのは、彦根の新工場の立ち上げがうまくいってないことが背景では？

A：その影響ではない。

注）新棟はまだテストラン中（生産にはまだほとんど使っていない）。

Q：SPE、1Qの受注は良かったが、今後のアプリケーション別の増減感はあるか？

A：ファウンドリーが増え、ロジックは堅調なまま横ばい。1QはDRAMが中国で増加した反動で、2Qでは減少すると予想。NANDは回復にはまだ時間を要すると見ている。

Q：SPE、ファウンドリーの前倒し投資期待があるが、予算にどれくらい入っていたのか？

A：ファウンドリーは、期初想定よりも上振れを見込む。逆に、メモリーの売上スライドの可能性も視

野に通期予想ではほぼ相殺と想定。結果的に、期初の売上想定の商品構成よりも、より確実なもの（商品構成）になると想定している。

Q：FT、1Qの赤字幅が相当だが、採算性の悪い大型案件（G10.5用大型装置）が初めて売りが上がってくる一方、G6（OLED用）の売上が始まれば、商品ミックス改善により、収益性は上がる可能性あり？今後の利益の見通しは？

A：主な引き当てはもう終わったため、今後は、収益改善ができると考えている。

Q：FT、大型（G10.5用大型装置）案件の変動費が悪化した背景は？今期、売りが上がり始めたとのことだが、2つ目の案件は、また引き当てするのか？

A：変動費悪化の要因は、ハンドリングコストが、予想以上に悪くなったこと。2つ目の案件も含めて、1Qで引き当てたため、今後は、収益性も改善に向かう。

Q：GAとPE、このところ下振れが続いているが、その背景は何？今後どうする？

A：GAは、米中貿易摩擦などもあり、米国、中国で弱含み、1Qは計画を下回った。しかしながら、足元では回復傾向にあり、2Qでの回復を見込んでいる。

PEは、上期はまだ苦しいが、下期には回復する予想。

〔備考〕

SPE: 半導体製造装置事業、GA: グラフィックアーツ機器事業、

FT: ディスプレー製造装置および成膜装置事業、PE: プリント基板関連機器事業

以上